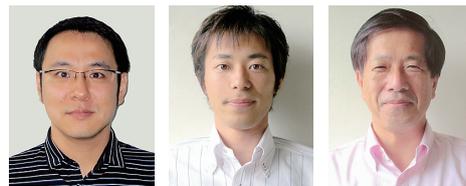


# 人の移動情報の基盤整備及び交通計画への適用に関する取組み



高度情報化研究センター 情報基盤研究室

研究官 (博士(工学)) 今井 龍一 研究官 井星 雄貴

高度情報化研究センター

グリーンイノベーション研究官 濱田 俊一

(キーワード) 人の移動情報、動線データ

## 1. はじめに

交通計画では、パーソントリップ調査や道路交通センサス等の人の移動情報に関する統計調査の結果が活用されている。一方、東日本大震災の経験も踏まえ、鮮度ある“人の移動情報”を機動的に扱える仕組みづくりの重要性が認識されている。

本稿では、ICT（情報通信技術）により取得できる人の移動情報を収集・分析できる基盤（プラットフォーム）を構築し交通計画等へ適用する取組みの概要を紹介する。

## 2. 人の移動情報の収集・活用の現状

前述した統計調査は、事前に準備された調査員を大量動員して行い、その調査結果は、数年あるいは10年を代表する特定の1日のデータであるため、災害発生時など、予測・準備できない時刻の非日常的な人の交通行動の把握には活用できない。

一方、昨今のICTの進展に伴い、スマートフォン、カーナビゲーションシステムや交通系ICカード等の各媒体により、鮮度の高い多様な人の移動情報が事業者ごとに大量かつ広範囲にわたって24時間365日収集されている。この社会潮流を踏まえると、多様

な媒体により収集された人の移動情報の特徴を活かした組合せ分析への展開が期待される。しかし、現在は単一モードの移動情報（例えば自動車の移動履歴）を用いた分析に留まっており、各事業者で収集された人の移動情報を連携する仕組みがないため、一連の交通行動（移動の始終点）が把握できない。

## 3. 人の移動情報のプラットフォームの整備

このような現状を踏まえ、本研究では、ICTにより取得できる多様な媒体により収集された人の移動情報を低コストで収集・分析できるプラットフォーム（運用や制度面の仕組みも含む）の構築に取り組んでいる。これにより、既存の統計調査を補完し、効率よく安価に時宜を得た調査が可能となり、人の特性にきめ細やかに対応した交通計画・防災計画の策定等、行政サービスや民間サービスの効率化・高度化に寄与することが期待できる。

今後、モデル地域で人の移動情報を収集・分析する実証実験を経て、プラットフォーム（プロトタイプ）の開発や制度設計を行い、実運用に向けて鋭意推進していきたい。



図 人の移動情報プラットフォームのイメージ